

授業科目名 (英文表記)	食農地域づくり特論 (Special Issue on Food and Agriculture, Community Development)		
単位数	2	授業形態	講義・演習
担当教員	大浦由美、藤田武弘、ゲスト講師(岸上、辻、杵本、植田、戴、平田、大西(予定))		
開講	南紀熊野サテライト、秋津野ガルテン	区分	大学院
実施日・時間	第1回	5月11日(土)	13:00~17:00
	第2回	5月25日(土)	13:00~17:00
	第3回	6月8日(土)	13:00~17:00
	第4回	6月22日(土)	13:00~17:00
	第5回	7月20日(土)	13:00~17:00
	第6回	7月27日(土)	13:00~17:00
【授業のねらい・概要】			
<p>グローバル化の進展は、現代日本の国民生活や地域のあり方に大きな影響を及ぼしています。とりわけ日本の食を支える農業・農山村は、農産物価格と農業所得の低迷を背景として、労働力の確保や農地・林地などの基礎資源の適正な維持・管理が危ぶまれる状況にあります。さらに、過疎化・高齢化により共同体としての集落機能が喪われる「限界集落」化が進行するなど、農山村に居住する農家や住民だけでは地域を維持・管理することが困難になっています。その一方で、若年世代を中心に「田園回帰」の動きがみられるようになり、都市的生活者と農村との新たな関わり方が生まれている。この講義では、現代の「食」と「農」の関係性を問い直すための視座を与えると同時に、食料・農業問題や農業経営、地域づくりをめぐる現状と課題、および「田園回帰」時代の都市と農村との新たな関係を踏まえた地域資源活用や農村ビジネスについて学び、持続可能な地域社会づくりの方向性について展望します。</p>			
【授業計画】			
<p>第1回 現代の食料・農業・地域づくり(担当:藤田武弘、大西敏夫(予定)) 食と農および地域づくりの連環に関する基本的視座を確認し、現代的課題について総合的に学びます。</p>			
<p>第2回 現代のフードシステム(担当:藤田武弘・戴容秦思)※秋津野ガルテン会場 グローバル化が進む現代の食料市場と流通の変化について解説し、その背景にある地域の課題について考えます。</p>			
<p>第3回 農業経営をめぐる課題(担当:大浦由美、辻和良、杵本敏男) 農業経営が直面する現状と課題について学ぶとともに、農産物の品質制御についての課題も学びます。</p>			
<p>第4回 都市農村交流の現段階(担当:大浦由美、植田淳子) 都市農村交流の現代的意義と課題について、グリーンツーリズムや交流による森づくり等の事例を通じて学びます。</p>			
<p>第5回 地域資源活用と農村ビジネス(担当:大浦由美、岸上光克、平田隆行) 地域づくりに資する地域資源の活用について、空き家や廃校の活用および特産品活用等の事例を通じて学びます。</p>			
<p>第6回 フィールドワーク(担当:大浦由美、岸上光克) 5回までに学んだ内容に関連する事例を現地調査し、さらに理解を深めます。</p>			
【到達目標】			
<p>現代の食と農の関係性および農業経営や農村が直面している課題について、グローバルな視点から理解できるようになる。また、「田園回帰」時代における新たな都市と農村との関わり方や都市農村交流の現代的意義について理解し、それを踏まえた地域資源活用や農村ビジネスの事例を学ぶことを通じて、持続可能な地域づくりの方向性について自ら展望できるようになる。</p>			
【教科書】			
特に指定しません。			
【参考書】			
藤田ほか編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房、2018年。その他は各講義内で随時紹介します。			
【成績評価方法】			
授業内での発表や提出物、グループ討論に対する姿勢などの学習状況をみて、総合的に判定します。			

【授業時間外学習】

自分で簡単な脚本を書いたり、地域の調べものをするなどの学習時間が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】

基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。